1999年11月創刊 トータルヘルス　　2011年12月20日発行（No.70）

Physical Mental Spiritual
Simple Economical universal
Total Lifestyle Change

自然を基調にした健康づくりの情報誌

トータルヘルス

No.70

年6回発行
年間購読料　〒共1800円
郵便振替　トータルヘルス　00190-9-173681

巻頭言

ガン回復の望み－先決は体内浄化

米国カリフォルニア州でハーブ療法に心を燃やすリチャード・シュルツ氏。偉大なハーバリストを師とした彼は、自分も早く有効な自己ブレンドで患者を治したいと熱望していた。師は常に「どんな病気も、まず体内浄化が先決だ」と語っていた。その教えに従い多くの排泄物を出す方法で患者の体内浄化をすると、大方の患者はハーブ療法開始前に回復に向かうことを悟った。

諸外国におけるガンの目覚ましい回復例でも、殆どは治療プログラムの最初に体内浄化が組まれている。米国で実績のある自然医療機関が採用しているぶどう療法、人参、ブロッコリー、大麦若葉のジュースによるクレンジング、断食やチャコール（活性炭）による血液浄化などである。デンマークや韓国の優良自然医療機関でも、体内浄化から始めるのが定番だ。多くの人はガンの宣告を受けるとまず「何を飲んだら治るだろうか」と、何か体に入れるものを模索する。しかし良いものを入れる前にまず、これまでガン細胞を作ってきた毒素や発ガン物質を体内から取り除くことが先決だ。本号の「ガンの予防と回復」には、体に入れてほしくない多くのものを列挙した。肉、魚、乳製品、タバコ、砂糖、食品添加物など。実はこれらに加えて太字で筆頭に書き足したいものがある。それは毒そのもの、猛毒の「抗ガン剤」だ。

一九九〇年、アメリカ議会に提出された技術評価局報告書は、「抗がん剤、放射線は病巣を一時的に縮小させるが、延命効果は認められないうえに、生活の質を悪化させる」と断定。ＮＣＩ（アメリカ国立ガン研究所）のデヴィタ所長も、一九八八年のリポートで、抗ガン剤治療を受けた15万人の患者の調査結果では、抗ガン剤はガンを何倍にも増やす「増ガン剤、向ガン剤」だと断定している。また、ＷＨＯ国際ガン研究機関 は、発ガン物質一覧に抗ガン剤を最強の発ガン物質として挙げている。

イギリスのある病院では、超進行ガンおよび乳ガンの末期患者二五〇人を対象に、病院治療を全く受けない場合の延命率を調査した。それによると、末期と診断されてから3年生存率が約50％、5年が18％、7年は10％。一方、摘出手術を受けた乳ガン患者の約50％は2年未満の生存であった。またある内科医が調べた胃ガン放置患者の5年生存率は64％、何らかの治療を受けた患者のそれは平均50％であった。痛みや苦痛も、放置患者の方が少なかったという。何もしないでこれだけの成績が得られるのであれば、積極的に体内浄化を図り、毒を入れずに自然療法を続けるならばどれ程の成果が得られるだろうか。偉大なハーバリストも腕の見せ所がなくなるくらいに回復するのも決して夢ではない。

参考図書：抗ガン剤で殺される―抗ガン剤の闇を撃つ　船瀬 俊介（著）花伝社
患者よ、ガンと闘うな　近藤誠（著）　文芸春秋

Contents 目次

● 巻頭言　ガン回復の望み－先決は体内浄化 …… 1
● 牛乳信仰の崩壊（3）牛乳がもたらすさまざまな病気… 2～5
● 家庭でできる自然療法 乳がんの予防と回復（その3） 6～11
● Topics ガン－私はこのようにして回復しました！ 12～13
● クッキング：イタリア風オムレツ&ナッツボール …… 14
● NKKだより ニュースタートクッキング神戸教室からのリポート 16